

JREL 仙台 組織部情報

J R 東労働組合仙台地方本部組織部

2020年 5月28日

発行責任者 大越 和人
NO. 26



特集

新型コロナウイルス

コロナで「ロックダウンは必要なかった」

英大学研究チームの衝撃論文

“外出自粛”止まりの日本よりも、なぜ厳格な“ロックダウン”に踏み切った国々の方が感染者や死亡者が多いのか。その答えとなりそうな研究論文がもたらされた。

英イースト・アングリア大学の研究チームが発表。

イギリスやドイツ、フランスを含む欧州30カ国を対象に、店舗への休業命令などのコロナ対策の効果について統計的に分析したという。その結論を抜粋したのが以下のとおり。

〈ロックダウンは日数が延びるにつれて、感染者数が増加。外出禁止が感染拡大を抑制するのに必要でない可能性を示している〉

これが事実であれば、**小池都知事が繰り返してきた「ステイホーム」など全くの無意味**。むしろ、**感染拡大にひと役買っていた可能性すらある**。

カリフォルニア州で救急クリニックを経営する2人の医師の会見。

〈このウイルスは思ったよりも致死率が低い〉 〈高齢だったり、重大な持病や免疫不全を抱えている人だけ外出を制限するべき〉 〈新型コロナウイルスで死ぬ人がいても、残りの人は集団免疫を獲得する。外出制限を続ける必要はない〉

「こうした見解には頷ける点も少なくありません」

心療内科、循環器科医で、大阪大人間科学研究科未来共創センター招聘教授の石蔵文信氏。

「厳格なロックダウンを敢行したイタリアやスペイン、アメリカではいまだに感染者数や死者数が多い。イタリアは3月9日にロックダウンしましたが、5月以降も連日200人近い死者を出している。無論、ロックダウンしなければ感染者はさらに増えていたとの見方もあります。ただ、**外出禁止となったイタリアでは、家庭内感染によって高齢者の死亡が相次いだとも伝えられています**」

京都大学ウイルス・再生医科学研究所の宮沢孝幸准教授

「新型コロナウイルスで注意すべきは主に飛沫感染と接触感染で、空気感染はほとんど起こりません。**道端で感染者とすれ違うくらいでは感染の心配はないのです**。仮に通勤電車で感染者と乗り合わせたとしても、**マスクをしていれば、感染者が大声でも上げない限り感染を恐れる必要はないし、実際、満員電車で感染が拡大した例は報告されていません**。たとえば、ひとり客ばかりのラーメン屋のカウンターでは、横に飛沫が飛び散る危険性はないので、わざわざ一席飛ばしに座らなくても大丈夫です」

詳しく報道されない情報もたくさんあります
正しい知識を身に付け、冷静に対処しよう！！